

令和元年度第2回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 令和元年8月26日(月)午後1時30分～3時00分

2 場 所 市役所5階501B会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 12名

森会長、永井副会長、大谷委員、角田委員、田村委員、倉上委員、鎌田委員、荒川委員、飯塚委員、阪田委員、平林委員、田端委員(以上名簿順)

【事務局】 12名

こども福祉課：木村課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

健康推進課：野澤課長、島田母子保健係長

学校教育課：荒川学事係長

生涯学習課：武井課長、山口青少年係長

教育総務課：鈴木課長、折原総括係長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング 吉元研究員

【傍聴者】 1名

4 議 事

(1)第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 基本理念について

(2)教育・保育の量の見込みと確保方策について

(3)その他

5 配布資料

・会議次第

・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画の基本理念について：[資料1](#)

・子ども・子育て支援に関する取組(第4章)：[資料2](#)

・子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策(第4章)：[資料3](#)

・自由記述分類一覧

6 会議内容(概要)

(1)開 会

(2)あいさつ

(3)議 事

①第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 基本理念について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

- 委 員：1頁目に書かれている1～3の事務局案は大人から見た子育て社会の言い回しなので、子ども側から見ての言葉にしたい。
- 委 員：今後プラス思考で行くのであれば里沼を入れた方がいいのではないかと
思うが、そんな里沼のポジショニングの難しさを感じる。
- 委 員：文字通り、地域全体で子育て・成長を見守って応援し、その結果笑顔が溢れるまちになれば良いと思う。
- 委 員：子育てに対して、子どもたちは館林の未来を担うので、地域の皆で支えてあげてサポートし、大事に大事に宝を育てたい。そのためには安心・安全が欠かせない。
- 会 長：一人ずつお話を聞いていて、どんな思いでこの言葉を作ったか、文字の持っている力を感じながら考えていきたい。
- 委 員：働く女性が増加しているので、安心して子育てができる環境というのが根底にあると思う。第1期計画で決められた言葉がいいのではないかと
思うので、あまりコロコロ変えるよりも同じ基本計画がいいのではない
か。安全・安心という言葉もキーワードだと思う。日本遺産になった里
沼を入れてみた。
- 委 員：大島地区は超々高齢化社会となっており、おじいちゃん・おばあちゃん
に子育て世代が何かしてもらっただけでなく、相互関係（世代間交流）を
していかなければいけないのではないか。そういう仕組みづくりができ
たらいいと思う。
- 委 員：学校の管理職時代に、職員、朝会や子どもたちに向け『支え合い、助け
合い、明るく元気に頑張ろう！』と呼びかけていたことが頭に残ってい
る。支え合いが大事。
- 委 員：館林は自然が豊かなので、維持する、守るという意味を込め循環という
言葉を入れた。また、館林のいいところを10個自分も言えるのか？とい
うところからスタートした。自分が言えるようになれば、子どもたちにも
繋がっていくのではないかと考える。
- 委 員：未来ある子どもを地域全体で支えていこう、という考えで作った。
- 委 員：現在・過去・未来の3つのポイントで考えた。里沼など昔から繋がって
いるから現在があり、日本遺産は宝、子どもも宝、今持っている宝を大
事にし、地域力で次に繋ぐイメージで、未来という言葉を使った。先
人たちの思いを繋いでいきたい。

委員：館林にあるものを活かしていかないといけない。お年寄りが今まで培ってきたものを子育て世代へ支援として伝えたい。また、ひとり暮らしのお年寄りも見守らなければいけない。各世代がお互いに協力しながら、地域愛、支え合いを目指し、お父さん・お母さんが笑顔で、子どもの瞳が輝いている（いく）よう思いを込めた。

会長：提案いただいたどの言葉も思いがこもっていて大切、落とせない。子を感じる気持ちを言葉にのせていきたい。確かに事務局案は大人視点である。子ども達の思いに、館林は応えられるだけの基本理念を示しているか？と言われると、整いすぎている気がする。

②教育・保育の量の見込みと確保方策について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

委員：【資料2、P3（3）】

昨今、『子ども食堂』が話題になっているので、ここにも入れたらどうか。

【同 P5（5）】

妊婦健診などと同様に、生まれる前の段階から発達障がいに対する保護者教育等を取り入れるべきではないかと思う。

【同 P7（8）】

地域と学校の密接な連携によって小学生の安全は守られている。現状は、校長、教頭が自らガードを張っているような状態。以前、改善のため、それぞれの通学路で安全パトロールがどの程度行われているのか情報提供を求めたが、一向に返事がない。一方、大島地区は地域や学校が協力的で連携し、実現できている事例がある。そのちぐはぐさが市内にある。市全体として安全・安心を考えるようにしていくべきである。

③その他

〈アンケート調査自由記述の分類一覧について〉

・委託業者より説明

【質疑応答等】

会長：前回の会合での宿題、自由記述について。近隣の市町村には安く利用できる施設がある。私たちの時代はそこら辺の田んぼで遊んでいたが、今の若い世代は子どもを連れて行ける場所を欲しがっている。安心で安全、まわりを見てくれる人が必要。自由記述の中に様々な意見があり、ないがしろにはできない。

委員：豊かな自然や文化が利用できるような施設ないのか？安全なところが確

保できているのか。自分の頃と子育ての仕方が変わってきているとすると、今のお母さんたちが必要としている遊び場を考えてあげないと、と感じている。

委員：キッズピアには遊具があるから安心して連れて行ける。何もない公園だと遊び方が分からないから親が連れて行かないということがあるのではないか。この公園では何ができるかを明確にして親に教育する。無いと言われているが公園は結構ある。車社会だから道路沿いしか知らない。公園マップがあると、転入者にも便利。情報の発信者と受け手が上手くマッチングできていない。見守りもかなりやっているのに、保護者懇談会ではやっていないと保護者に言われる。発信者と受け手がクロスしていくと満足度が上がっていくのでは。

委員：話し合いの場が持ててないのかもしれない。使わせたい人と使いたい人の話し合いが必要。美術館でも子どもが遊べる。

会長：無い訳じゃない。ただし、どこに何があるのか分からない。例えばトイレがあるか、水飲み場があるかとか。以前太田市で、三浦折りでその様なマップを作ったことがある。そういう地道なお母さん主体の視点での情報があると楽しいのではないか。インターネットは印刷が意外と面倒。マップを作ってくれればと一歩進んでありがたい。

〈前橋市「遊び場利用推進事業」について〉

・事務局より説明

【質疑応答等】

委員：下校時に帰ってくる子どもの様子を見るだけで、その地域での子どもに対する取り組みが分かる。ボランティア集めは大変だが、放課後子ども教室は皆さんから求められているので、取り組みをしていくべきと感じる。学童クラブを支えているのは、地域、放課後子ども教室、学校、行政等が連携して初めて成り立つものであり、それぞれが努力しないと出来上がらない。なるべく市民の顔を思い浮かべながら発言させてもらっている。色々対応してもらい、事務局には感謝している。

委員：自由記述の中で、子どもが発達障がいと診断された母親への支援について意見があったが、館林市では4課連携で先進的に行っている。障がいがあっても差別や偏見を受けることなく安心して子育てができるまちでありたい。青少年育成推進委員の研修で聞いた話では、青年の家のキャンプ体験でトイレの勝手が違い混乱する子どもがいる。生活が文化的で豊かになったのはいいことだが、子どもが育つ力を低下させている面もある。大人社会の被害も受けている。外に出て親子で遊べる環境を整え

れば、家でゲームばかりしている状況も改善されるのではないか。公園
に対しての関心も高い。

委員：障がいを持つ子が増えている。東京の保育園では大学の先生が入っ
て、お医者さんとの繋ぎ役をしている。年中時、全員に検査をしている
自治体もある。早い時期の診断が良いのかは分からないが、そういう取
り組みがある。イタリアに、世界的に注目されている教育水準の上があ
った幼稚園があり、そこでは“教育家”が先生たちを指導している。教育
の質は以前より問題視されており、公立・私立、幼稚園・保育園の枠を
越えて同じ教育レベルになる指導、専門家が館林でも必要になると思わ
れる。

委員：10月から幼児教育の無償化が始まるので、もう一度お金の使い方につ
いて見直したい。公立保育園9園を民営化すれば運営費の3/4が浮く。子
どものために使うのであれば、生まれた後の政策を手厚くする方法もあ
るが、もっと抜本的に、どうすれば人口が増えるか、どうすれば子ども
を産んでくれるかと考え、産科医を連れてくる、病院を作るなどのでき
る。館林市の大きな流れとして、そういうお金の使い方や動きを繰り返
してほしい。

委員：会議に参加してみても、皆の思いは同じ、未来の子どもたちへの気持ちは
同じだと実感した。それをいかに実現させるかが重要。子どもや保護者
に保育士として接していると、時代が変わってきていると感じる。私た
ちも考え方を変えていかなければと言いつつ聞かせている。しかしながら、
子どもの興味や好きなものなど基本的な部分は変わっていない。虫や草
花、石ころなどキラキラした子どもの気持ちは今もあるとお伝えしたい。
年齢問わず遊べる総合的な遊び場があれば良いと思う。大きい子対象
の遊び場には、安全の面から赤ちゃんを連れて行けない。周りと情報を
共有・交換したい小さい子をもつお母さんも多い。保育園では、発達障
がいを抱えた子どもへの療育等頑張っているが、保護者の方に寄り添い
ながら連携するのがなかなか難しい。

委員：館林には小さい公園はある。小さい子は昔ながらの遊具でも遊んでくれ
るが、小学生になると遊ばない。結果、人（友達）がいない。近隣のよ
うな大きい公園があると良い。里沼で行うカヌーは良いと思う。高齢化
も進んでいるのでお年寄りも交えながら作ったら、良いものが生み出せ
るのではないかと感じている。昔は放課後に校庭で遊ぶことができたが、
今は授業が終わったらすぐ帰らなければならず、学年により終わる時間
が違うので兄弟姉妹がいても一緒に帰ることができない。ボランティア
に見守られつつ、さらに、一人で帰るよりも一緒に帰れたほうが、親と

して安心である。

委員：先日、子育て講演会に行ってみたら、子連れの人参加していた。パンフに子連れOKと入れてもらえたら、子どもを預けられなくて諦めていた人が減ると思う。病後児保育のハードルが高い。まわりに聞いても、預けたくても預けられないという状況にある。せつかくあるのに預けられないのはもったいない。もう少し預けやすい仕組みを作ったら、共働きの人も利用したいと思うのでは。

委員：館林市に越してきてよかったと思う。他市と比べても負けていないと感じる。遊び場がないという問題、知っている範囲だけで判断されてしまう。こちらから情報を出すときに、ただの表でこういう施設がありますだけでなく、具体的なイメージ（春の館林〇歳児の過ごし方、雨の日などのモデルコース）を載せれば伝わりやすいと思う。公園に行ってもママは遊び方が分からない。遊びマスターのようなボランティアを育成すれば、親子で教えてもらえるし、自然も活かして館林の事業としていいのではないかと思う。

委員：35年間中学校の教員をしていた。当時は荒れた学校が多く、中学生の多感な子を相手にしていたので、子ども子育て会議に参加した当初は違いに困惑した。しかし、北幼稚園の園児たちと接する中で、自分も子育ては経験しているが、色々と再発見があり成長することができたと思う。

会長：ハード面・ソフト面、様々な意見が出たと思う。皆さんの2年間の思いを事業計画策定に反映させていきたい。すぐ取り組めるものもいくつかあるので提案したい。役はここで終わるが、終わったと思うのではなく今後も見守ってもらいたい。基本理念については、持ち帰って練りたいので事務局に一任させてほしい。

(4) 閉 会